

平成3年3月
4巻1号

日本口腔 インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

日口腔インプラント誌

JJSOI

ISSN 0914-6695

1991

日本口腔インプラント学会

B-2. バイオセラムインプラントの

臨床成績について

(厚生歯科診療所)

*(府中恵仁会病院口外)

** (鶴見大歯・口外)

渡辺 孝夫, 岩野 清史, 中尾 泉*

瀬戸 皖一**

昭和58年2月より昭和63年4月の約5年間に患者35人(男9人, 女26人, 平均年齢41.0歳)に54本のバイオセラムインプラント(京セラ社製)を植立した。平成2年7月13日時点における本インプラントの臨床経過について調査した。

用いたインプラントの種類はSIタイプ29本, ADタイプ15本, 他となっておりこの2つで大半をしめた。植立部位は下顎臼歯部32本, 上顎臼歯部12本, 上顎前歯部10本であった。本インプラントを使用した単位あたりの補綴物は44個で, ほとんどはCrown Bridgeで中間欠損型29個, 遊離端型13個であった。これらの補綴物は欠損歯数2.0歯に対し, 天然支台歯2.1歯, インプラント1.2本で構成されていた。植立から集計日までの期間は4年2カ月, この時点での記録をみると上部構造装着に至ったものは54本で100%であった。このうち2本は周囲組織に炎症を起し除去した。

したがって機能的負荷状態としたものは52本96%という高い数値を得た。これらの時間的経過は植立から上部構造装着までが約3カ月, 上部構造装着から最終確認日までが約2年3カ月であった。補綴物単位にみるとトラブルは15補綴物(34.1%)にみられた。内容は上部構造の破折, 脱落など主に上部構造に問題が生じたもの7個, 周囲組織の腫脹, 疼痛などインプラント部に問題が生じたもの5個, 同様に支台歯部に生じたもの3個であった。これらをトラブル群としてその他の群と補綴物の構成を比較すると, 補綴物長3ないし4歯分で天然支台歯2歯以上の時最もトラブルが少なく, この際インプラントの増加はトラブルの減少に寄与しなかった。今回の集計期間中に16名, 29本のインプラントについて口腔内診査を行った。その結果補綴物単位のトラブルが少なく, かつインプラント周囲に炎症症状が認められなかったものは13本で, これを総合評価良好とした。これは全インプラントの24.1%であった。